
朝日が昇るまで

枝豆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝日が昇るまで

【Nコード】

N2151B

【作者名】

枝豆

【あらすじ】

私が、働きに来ている老人ホームでは元気で面白すぎる人達がたくさんいます。今日は、その一部の方々を紹介したいとおもいます。

とある老人ホームでの出来事。

私は、この老人ホームで介護師をしている
25歳の独身女性です。

ここには、別に介護しなくてもいいんじゃないか？
と思ってしまうような、元気で面白いお年寄りの方々がいます。

「25歳にもなって、男の一人もいないとは……」

「佐藤さんには関係ありませんから。」

この人は、佐藤義雄さん。75歳。

若い彼女さんが、何人もいるみたいでいつも違う女の人が面会に来る。

そのたびに、女の人の甲高い悲鳴が聞こえてくるのは気のせい、気のせい。

彼女が帰った後、ゴミ箱にティッシュが山のように積んであるのも
気のせい、気のせい。

「ああ、今姉ちゃんいやらしい想像してただろう!!」

「それは、あなたでしょう？仲間さん。」

この中学生のような反応を見せるのは、仲間幸男さん。
自称40歳。

まあ、そんなことはありえないんだけど。

見た目はとっくに還暦を越えているおじいちゃんだ。

口癖は

「心も身体も少年のままさ」

・・・。

ありえない、ありえない。
この爺さん、普段は天然ボケのキャラっぽいけどじつはものすごい腹黒。

面会にくる人たちは、真っ黒なスーツにグラサン、頬にはナイフで斬った後が・・・。

あはは。

しかもその人たちには、

「兄貴」と呼ばれている仲間さん。

だから、余計な詮索はできない。

誰でも、自分の命は惜しいものです。

そうおもいませんか？

「さつきから、誰に話しているのかな？私を無視して。」

仲間さんの顔が、近くにあった。

目は、すわっている。有無を言わさない目。

そうはおもいませんか・・・？

ねえ！

「まあまあ、そう怒らないで、仲間さん。」

「鈴木さん。」

唯一、このホームでまともな入居者、鈴木さとねさん。

優しい、優しいおばあさんだ。

「ほら、このお茶でも飲んで心落ち着けてくださいよ。」

そう言っつて、差し出したのはお茶と呼ぶことは一生できないだろう
まどろんだ色の黒い物体。

液体とは呼べない、ゼラチン質。

ありえない、ありえない、ありえない。
マジで、飲めない。食べれないですから。

お誘いを受けた仲間さんは、目に殺気をみなぎらせていた。

それに、笑顔で答える鈴木さん。

鈴木さんが一番怖いかも……。

私は、思わず人様のラブシーンを見たかのようなスピードで、その場を離れた。

この老人ホームの名前は「朝日が昇るまで」
ココには一風変わった方たちが集まってくる。

誰か、誰か私を助けてください。

ずっと、つっこみ続けないといけない。

本当は、ボケなのに……。

(後書き)

コメディイです。読んでくれた方有難うございます。
次こそは、面白いのを書きたいとおもいますので、評価・感想お待ちしています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2151b/>

朝日が昇るまで

2010年11月11日07時48分発行